

頑張って

大津 隆文

サッカー世界大会が始まり、日本中に「頑張って」との声援が溢れている。

私達は本当に頑張ってという言葉をよく使う。とくに受験に向かう子や試合に臨む選手には必ずと言っていいほどだ。しかし同時に余りにもありふれていないかという当惑を覚える。受験生や選手本人が周り以上に頑張るつもりでいるのに、かえって余計なプレッシャーをかけているのではないか。もう少し気の利いた掛け言葉はないのだろうか。

英語には頑張ってという表現が色々あるようだが、中には「グッドラック」とか「イクイトイージー」というのもあると聞いた。こんな肩の力を抜いてあげるような声掛けもいいなと思う。

もう一つ「頑張って」に感ずる当惑は、頑張っても必ずしもプロ選手になれたり金メダルを獲得出来たりするわけではないことだ。目標を達成出来るのはごく少数で多くは夢破れる結果に終わるのが現実ではなからうか。それでも頑張ってと声を掛け続けるのは無責任ではないか。頑張り(努力)は報われるのか。

しかし頑張る(努力する)過程で得るものは大きい。必死に頑張る過程で精神的、肉体的な壁を乗り越える実感を味わうことがある。その進歩向上の体験が本人にとって大きなプラスになり、人生を豊かにするに違いない。また頑張る姿が周囲に与える感動も大きい。たとえ当初の目標が実現出来なかったとしても、以て瞑すべしであろう。

のんびんだらりとはなく頑張って生きるべき、というのは貧しい時代の哲学かもしれないが、無数の無名人の頑張りの集積が今の豊かな日本を築いてきたのだと思いたい。

ところで限界まで頑張って壁を乗り越えるのは、若い人には当てはまるが年配者にはどうであろうか。「年寄りの冷や水」と言われるように頑張って体を痛めるリスクがある。最近は気を付けてとか無理をしないで、と声を掛けられることが増えてきた。

「頑張って」から「無理をしないで」に変わって、もう頑張らなくてもいいんだと、心休まる思いがしている。